

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年4月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672100189
法人名	株式会社 一幸
事業所名	グループホーム みどりの郷
所在地	鹿児島県南九州市穎娃町上別府4627番地 (電話) 0993-28-2250
自己評価作成日	令和5年2月11日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、利用者様が住み慣れた地域でグループホームでの生活に生きがいを感じ、気ままに生活をしていけるような環境作りに努めています。当施設には畑があり、レクリエーションの一環で野菜を育てたり、花の苗を育成して綺麗に咲くころには施設内で飾って季節を感じて頂いています。野菜の収穫時期には利用者様と一緒に収穫を行い、収穫した野菜を皆で食べたりと喜びを共有しています。また、施設駐車場の傍にある大きな畑では、隣接している施設のご利用者様や職員と一緒にサツマイモを植え付けから収穫までに行い、泥だらけになりながらも交流し、楽しい活動となっています。自治会にも加入しており、地域のお祭りや保育園の運動会、夏祭りにも参加を行っています。最近では新型コロナウイルス感染拡大の影響で参加交流をする事が難しくなっていますが、地域の保育園にご協力頂き子供達からのビデオメッセージを頂いたり、当施設で実施している避難訓練等に自治会長にも参加をして頂くなど、地域の方々のご協力を頂きながら交流の継続を行っています。事業所としても地域への貢献、奉仕活動として毎週ゴミ拾いや、近くの公園の清掃活動を継続して取り組んでいます。またコロナ禍でご利用者様ご家族様には様々なご不便をおかけしており、オンラインでの面会の提案や実施、当施設を運営する法人全体の取り組みとして、毎月法人からのたよりと一緒にご利用者様の日頃の写真と職員からのコメントを添えて送付を行っています。

ホームは幹線道路から少し入ったところに小規模多機能ホームと隣接し設置されている。周辺には小学校やスーパー、郵便局等の施設があるほか、特産である茶畑が広がる緑豊かな地域である。

ホームの理念として「地域の皆さんと共に、利用者様に寄り添いながら『心』で聴く姿勢を大切に、安心と笑顔があふれるサービスを提供します」を掲げ、経営理念である「共育、共生、共創」と共に唱和することで意識付を図り、外部評価を受けるタイミングで理念の振り返りを行っている。

地域の一員として公園の清掃活動や通りのゴミ拾いを行っており、散歩途中の挨拶や会話のほか、近所のスーパーに買い物に出かけた際には、近所の方や店員との会話を楽しんでいる。また、ホームの災害訓練に地域住民に参加してもらうことで離脱等、万一の際に見守りや声かけをもらえる関係を築いている。

コロナ禍の為、個別の外出等、自由に出かけることは難しいが、日頃より庭でお茶を楽しんだり、散歩に出かける等、日光浴や外気浴を楽しむ機会を作っている。ホームが所有する畑には、夏にはトマトやニガウリ、ピーマン等、冬には大根等の季節の野菜を育てるほか、毎年5月頃には、広い畑一面にさつま芋の苗を植え、利用者や職員が泥だらけになりながらも一緒になって草取りをしたり、日々の生育を見守る等して管理を行い、ホーム全体でのイベントとして楽しく収穫作業を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念のもと事業所の理念を作成し、実践できるように日々努めている。	法人の経営理念を毎朝、ホームの理念を週1回唱和することで意識付を図っている。理念の「心」で聴くを大切に考えながら日々の支援に反映できるよう理念を振り返る機会も設けながら共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流や貢献、また事業所を知って頂く事を目的に自治会へ加入しており、協力をいただけるご利用者様と一緒に自治会公園の清掃活動に加え、毎週ゴミ拾いを行っている。また最近ではコロナ禍で地域の夏祭りや、保育園の行事参加はできてはいるが、事業所の消防訓練等には自治会の方に案内を行い、可能な限り参加いただいている。	消防訓練に地域住民の参加が得られたり、収穫した野菜を差し入れてくれる近隣住民との間柄ができています。また、公園の清掃活動や通りのゴミ拾いに利用者も参加して行う等、地域の一員として積極的に関わりを作っています。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方々を対象に認知症や介護に関する勉強会を法人主催で開催し支援の方法やご理解を頂いている。また介護の相談や施設の見学はいつでも受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面での開催が主になってきているが、状況によっては地域の公民館を利用して対面での開催を行っています。自治会長、民生委員、行政、ご家族代表、地域住民の方々からのご意見やアドバイスを頂き、サービスの向上に努めている。	コロナ禍の為、書面による会議が中心であったが、感染状況が落ち着いたタイミングで対面による会議を実施している。メンバーからの提案により、ホーム玄関前に屋根を取り付ける等、出された意見は速やかに改善につなげておりサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者様のことについての相談、報告や関係法令に関して問い合わせを行ったり、書類提出の際には顔を合わせて関係を築いている。また、市主催の研修会等にも参加し市の担当の方と連携に努めています。法人主催の勉強会やイベントに関する案内等も行っている。	介護関係の書類や事故報告書の提出、また制度改定により運営に関し判断に迷った時等に行政に出向いたり電話で助言をもらっている。オレンジフェスタや多職種連携会議等、行政主催の研修会にも参加して協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関係法令に沿って基本的には身体拘束を原則行わない方針でケアに取り組んでいる。また、法人や事業所で身体拘束の勉強会を開催し、正しい知識とケアの質の向上に取り組んでいる。	身体拘束や虐待に関する研修会を年2回以上実施し、参加できなかった職員はレポートを提出している。身体拘束廃止委員会は運営推進会議に併せ2か月毎に実施しており、身体拘束の有無の確認や拘束の弊害についてを話し合っている。また、言葉による拘束については、気付いた時はその都度職員同士が互いに声を掛け合う関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関して介護基礎勉強会にて正しい知識を理解し、ケアに活かしている。また日々のケアの中で利用者様の精神状態や、身体的な阻害になるようなことが無いのか検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様で、日常生活自立支援事業を利用されている方もいらっしゃる為、学習に努めている。また市担当者とも連携し必要性のある方には提案できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明等にご利用者様、ご家族へ十分な説明を行い、契約を結んでいます。また、入居されてからも利用者様、ご家族からの疑問点や要望、改善等で必要と思われる時には、その都度文書等にて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の意見や要望については、運営推進会議やたより等で報告し、改善に向けて話し合いを行っている。また、ご家族とも連絡を密にとり信頼関係の構築、なんでも言い合える関係性を目指し、意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。	利用者からは日々の会話や様子から、家族からは面会に来られた際にホームでの様子を報告し、意見や要望についても聞き取っている。また、電話を取り次いだり、ホームでの行事や普段の様子をLINEで家族に報告する際にも意見や感想を頂き、利用者の支援や業務の運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や普段の会話等から必要に応じた個人面談等を行い、意見や要望を出しやすい環境が作れるように努めている。	管理者は日頃より職員の意見や考えを引き出せるよう、こまめに声掛けを行っている。申し送り時や職員会議、年2回の人事考課を兼ねた個別面談も実施している。また、気付きや連絡事項を「気付きシート」に記入し、申し送り時や状況に応じて報告、共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を含めた職員と状況に応じた情報共有、定期的な事業所訪問による、個々の能力、勤務状況の把握を行い、年2回の法人人事考課等による評価にて職場環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所の管理者からの報告や情報提供、行事や勉強会等を含めた交流、個人面談等に能力、力量の把握を行い、必要に応じた助言を行っている。各職員のスキルアップのため法人内外の研修および勉強会の機会を設けるとともに、資格取得等の推進を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で、活動が減少となっている法人主催の勉強会やイベント等の交流機会の提供の取り組みを行っている。その他SNSを通じた活動内容の発信やオンラインセミナー等への参加を行いサービスの質の向上に繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前より家庭や病院等を訪問し、ご本人やご家族に面会して、生活状況や身体状況の把握、要望や不安な事等を聞き、早い段階での信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に日常生活上での不安な事や心配事、要望等に耳を傾け、少しでも寄り添う事ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状態、意向を聞き、想い・確認シートやアセスメントシートを活用し、必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応の提案などを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の生活歴やご本人との会話の中で、今までの生活での習慣やご利用者が得意な事を見極め、その中でご利用者にできる事を提案、実践し、コミュニケーションをとる事で、関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加の案内や、面会時や電話などで普段の様子や利用者様からの要望を伝えたりするなど、利用者様やご家族がいつでもより良い関係を続けていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会が出来ない事もあるが、面会以外でもリモート通話での会話ができる体制作りにも努めている。またご家族にも毎月利用者様の活動写真をメッセージを添えて送付している。	友人知人との関係継続の為、電話や手紙の取り次ぎのほか、外出や訪問についても支援している。また、隣接する小規模多機能ホームでの交流も積極的に行い、馴染みの交流を続けている。孫との手紙のやり取りが楽しみになっている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、職員で情報共有を行えるように努めている。その情報をもとに、話題の提供を行い、利用者様同士のコミュニケーションが円滑にいくよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の入居先や、家族に詳しい情報提供を行うとともに、入院の場合はお見舞いに行ったり、ご家族へ連絡したりして支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや要望、希望を聞きケアに繋げている。また、普段からその方の視点に立ち考えるように努めている。	入居時に「確認・思いシート」を記入してもらい思いを把握すると共に日頃の様子観察や家族からの情報も参考にしながら日々の支援に反映させている。また、職員による気付きは申し送り時に共有しながら本人本位で過ごせるよう検討し、実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、本人の暮らしぶりや生活歴、仕事の情報等を聞き、ケアに活かしている。また、その情報をケアに活かすため、情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活する中で、本人の出来る事や出来ない事、身体の状態等を把握し、職員間での情報共有に努め、ご本人のリズムを大切にしながら、支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの普段のケアの様子や本人の身体状況などを情報共有し介護計画に反映させている。また、思い・確認シートを活用して、ご家族やご本人の想いを反映していけるように努めている。	本人・家族の意向を基にカンファレンスやモニタリング結果、医師や訪問看護師の意見も参考にしながらケアプランを作成している。また、定められた期間以外でも身体状況に変化がみられた場合には速やかにプランの見直しを行い、現状に即したプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の記録を用意して、日勤者、夜勤者が日々の様子を記録している。細かく記録をする事で様々な情報を共有できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人やご家族の状況や要望に応じて柔軟に対応できるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ご利用者様1人1人が慣れ親しんだ町で、また様々なコミュニティの中での生活を行っていただけるよう、地域のお祭りや行事ごとに参加をさせて頂いたりしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関を確保しており、ご利用者様が不安なく医療を受ける事ができるように支援している。基本的には一緒に受診へ同行し、状態を医療機関に伝えたり、不安な事など代弁できるように努めている。</p>	<p>入居前のかかりつけ医の情報を把握し、入居後もこれまでの医療機関への受診を家族と職員が協力して行っている。また、訪問診療による受診や訪問看護ステーションによる支援も得られるため、利用者家族、職員の安心につながっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の状態で何かある場合は、主治医や協力医療機関、医療連携の訪問看護師に相談し、アドバイスを頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は適切な情報共有を行うとともに、こまめな面会等を行い、利用者様やご家族の不安解消、希望を聞きながら、病院とも連携を図っている。コロナ禍で面会の制限がある場合は、入院先へ状況の確認を密に行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に今後についての説明を行ったり、状態の変化があった際にご家族や関係医療機関と密に連絡を取り、現在の状況等説明を行いご利用者様、ご家族の要望を確認し、連携をしながら対応を行っている。</p>	<p>入居時に「看取りに関する指針」「緊急時対応表」を説明し、適宜、同意、署名をもらっており、緊急時対応表については、数年後、また重度化に伴い再確認をする等、利用者や家族の変化する思いに対応している。また、看取りに関する研修会を行うことで、理解と技術の向上を図り、看取り支援に反映させている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に一度消防署にお願いし、救命講習を実施。法人でも勉強会などを開催し学ぶ機会の提供を行っている。AEDも設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に通報訓練や避難訓練、消火の講習や、救命講習等を実施し、災害時や非常時に円滑に避難できるように努めており、訓練時は地域の方への参加協力も出来る限りお願いしている。また、行方不明者捜索訓練も実施し、不測の事態が起きても、慌てずに行えるようにしている。法人全体でも独自のフローチャートを作成し、体制を整えている。	年2回実施する消防署立ち合いの防災訓練には自治会長も参加しており、屋外での避難誘導や見守りの協力をお願いしている。また、自然災害自主訓練や行方不明者捜索訓練も実施して緊急時の対応を確認している。備蓄は約3日分程度の食糧を用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に応じての声かけや自尊心やプライバシーに配慮した声掛けをするよう心がけている。また、職員には状況に応じた適切な声掛けや対応をするように指導、教育しながら全職員でケアにあたっている。	認知症の理解や接遇マナー等の研修を実施し、トイレ誘導の際はさり気なく声を掛けたり、ポータブルトイレを使わない時間帯はカバーを掛けている。排泄チェック表は普段、裏返しに伏せておく等、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、様々な自己決定ができるように対応や声掛けを心がけている。また、ご利用者様が意見や希望を言えるような雰囲気作りに普段から心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人のペースで活動や生活ができるように、柔軟に対応している。また、常日頃職員本意でケアにあたる事が無いように指導・教育を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人らしさを大切に、好みの服を着て頂けるように、声掛けを行っている。また、定期的に訪問理容師に髪を切ってもらい、本人の希望を聞き伝えるなど配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつまでも食事を美味しく食べて頂けるようにケアに努めている。またグループホームの特性を活かしながら料理に使用する野菜の皮むきや下処理などを職員と一緒にやっている。	栄養バランスに配慮した献立を作り、包丁を使って野菜の下ごしらえをしたり、配下膳等の食事の準備を利用者と職員が一緒に取り組んでいる。また、おせち料理やひな祭りにちらし寿司を作る等、季節に合わせたメニューを工夫し提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の1日の食事摂取量や水分摂取量などを把握し、栄養状態の把握等気をつけながら支援している。その方にあった食事形態や食材の切り方、トロミの使用、食器等工夫し対応している。またご利用者様の体調や意向に合わせて食事の配膳時間の調整を行ったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯の洗浄の声かけや介助を行っている。また、義歯チェック表を作成し、忘れる事の無いように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努め、それを基にトイレの声かけ等を行っている。出来る限りトイレで排泄が行えるように支援している。	排泄の失敗を減らせるよう排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導やパット交換につなげている。夜間睡眠の妨げにならないようパットを工夫したり、トイレ誘導を行う等、個々の状況に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や運動、腹部マッサージなどで自然に排便が出るように努めている。また、状況に応じて主治医等に相談を行い、その方にあった対応策を考えたりアドバイス、助言をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご利用者様の好きな温度に調整したり、入浴剤を使用して楽しんでいただき、ご利用者様のペースやADLに合わせた対応を行っている。基本の入浴日は決めてはいるが、希望があれば入れるよう柔軟に対応している。	週3回午前中の中入浴を基本としているが、希望があれば可能な限り対応している。1対1での入浴の為、利用者とのゆっくり会話ができ、新たな気づきを得られるよい機会になっている。入浴後の皮膚ケアや水分補給にも気を配り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の日光浴やレクリエーション、体操など日中活動を通して生活のリズムを作れるように努力している。また、休息したい時や、一人の時間を作りたい時は、柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様に一人一人の薬の情報シート（薬情やお薬手帳）を保管して用法や副作用等について把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴を把握し、様々な経験や得意な事など活かしていただけるように支援している。また、季節ごとの行事参加や外出する機会を作れるようにご家族の協力も頂きながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは日光浴をしたり、温かい時は外でレクリエーションを行ったりしている。また、コロナ禍で面会が厳しい状況ではあるが、感染状況をみながら面会や外出等の支援もご家族の協力を頂き行っている。	桜やひまわり、コスモス見物に出かけたり、病院受診時の道中の車窓から茶畑を眺め、何番茶だか話題にする等、会話を楽しみながらドライブしている。ホームの畑にさつま芋の苗を植え付け、草取りをしたり、収穫までを利用者と職員が一緒になって笑顔で取り組んでいる。また、散歩や庭でのお茶を楽しむ等、日常的に外気浴を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の能力に応じ、ご家族とも相談しながら、本人に管理をしていただいたりしている。事業所にて管理をする場合には同意を頂き、管理を行っている。買い物に関しては近くの商店に行かれたり、病院の帰りに立ち寄るなどの支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人より希望がある場合や職員からご家族に電話をした際に、変わって話ができるように支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールは天井が高く、自然な光が明るく入ってきて開放感がある。季節ごとのお花や、飾り物などを見て自然に季節を感じられるように掲示物にも配慮している。</p>	<p>フロアの天井は高く採光も十分あり、季節毎の作品掲示や花を飾ることで季節感を出している。また、日中は蛍光灯を使用し、夕方に向けてシャンデリアの暖色系電灯に切り替える等、リラックスできる環境に配慮している。浴室は2人が入れる広さを有するが個浴で対応しており、重度化しても入浴できるようシャワーキャリーを備えている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールや玄関にはソファが置かれ、中庭にもベンチを置いている。また、相談室などの畳部屋を使用したりして一人でも過ごせる空間となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り入居時に思い出の品や写真、使い慣れた物等を持って来て頂くようお願いをしている。また、ご主人さんのお位牌を持って来られている方もおり、利用者様にとって気持ちよく安心して生活ができるように努めている。	エアコンに電動ベッド、ベッドサイドテーブル、タンス、クローゼットが備え付けられ、テレビや仏壇、位牌、小物類を自宅から持ち込み自由に配置している。また、居心地に配慮して寝具は馴染みのものを推奨している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には必要な所に手すりを設置して、段差もなくバリアフリーになっている。また部屋の中のベッドやタンスなども、ご本人やご家族の希望などで配置を変えるなど柔軟に対応している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない